

第 5 回次期生物多様性国家戦略研究会のテーマと主な論点

1. テーマ

「生存基盤である生態系のレジリエンス確保と新たなリスクへの対処」

回復力や順応性を持った生態系を確保することや絶滅危惧種の保全・回復に向けて、保護地域等の従前からの保全対策に加え、民間取組を活用した新たな自然環境保全や、希少種の生息・生育地の保全、鳥獣の保護管理、外来種による影響の防止等、生物多様性に対する直接的な要因に対する対応策について議論する。

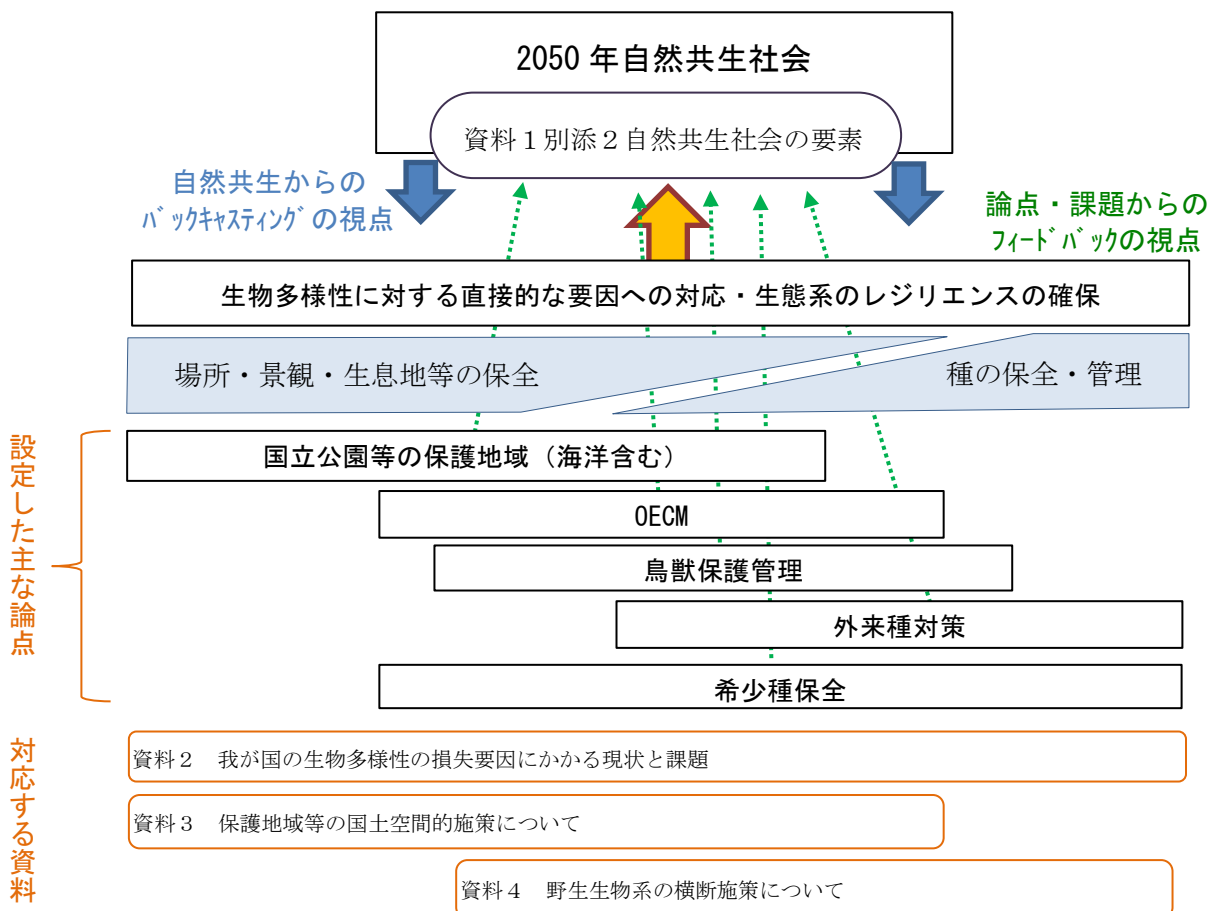
- 今回は、保護地域、希少種、鳥獣の保護管理、外来種など、をキーワードに、主に生物多様性の確保に直結した内容を議論。

別添 1：各回のテーマ（第 2 回研究会資料 4 の更新）

- 第 2 回研究会で議論した「自然共生社会の要素」を念頭に置きつつ、設定した論点に沿って検討。検討の中で浮かび上がった自然共生社会の要素は適宜「自然共生社会の要素」にフィードバック。

別添 2：自然共生社会の要素（第 2 回研究会資料 2 を元に作成）

今回の資料構成と議論の流れ



2. 主な論点（議事3、4の各項目ごとに共通の議論のポイント）

①「2030 マイルストーン（状態）」

（現行戦略にはない）「2030 マイルストーン（状態）」として、どのような

- ・目標設定（状態）があるか。
- ・達成度合いを測る指標・数値目標の設定があるか。

②社会実装に向けた要素（ターゲット）

「2030 マイルストーン」に向け、各取組の社会実装を進めるために、どのような

- ・基本戦略・行動目標（10年間の重点的行動）や、方策があるか。
- ・その進捗・達成を測る指標・数値目標の設定があるか。
- ・指標のベースラインや、達成状況の解釈。

③参画・行動を促す要素

多様な主体の参画や行動を促進する要素として、どのような

- ・連携・協働に向けた実現条件があるか。
- ・行動を促す指標や数値目標の設定があるか。

④上記①～③に関するエビデンスや事例。

⑤上記②～③に関する生物多様性保全上の意義・程度。

⑥上記①～③と気候変動対策やポストコロナ社会との関係。

3. ポスト2020 生物多様性枠組の検討状況

- ・愛知目標全体の最終的な評価も含めた、生物多様性条約事務局作成の「地球規模生物多様性概況第5版（Global Biodiversity Outlook 5 : GBO5）」が2020年9月15日に公表された（別添3、参考資料4）。
- ・COP15は2021年5月からさらに延期される可能性がある（具体的な日程は未定）。